

中国山西省の旅 (前) ——各地のキリスト教会を訪ねて

為我井 輝忠

これまで山西省には1度訪ねているが、昨年(2018年)7月あたりから同省のキリスト教の教会を訪ねて調査してみたいと思うようになった。これまで北京、上海、大連、福州等の教会は訪れてきたが、山西省に関しては全く未知数で、どこにどんな教会があるかほとんど分からず、インターネットで調べてもあまり詳しい情報を得ることが出来なかった。

そこで“わんりい”の会員で、山西省に何度も行かれている岩田温子さんに相談すると、太原で日本語ガイドをしている黄玉雄さんに相談してみるといいかもしれない、連絡を取ってみましょうと、お骨折りを頂いた。黄さんにメールをお送りすると、すぐには返事がなく、2か月以上も連絡が取れなかった。最終的に連絡が取れたのは広州からで、もう長く広州にいるということであった。しかし、この調査旅行は引き受けましょうと約束してくれた。それからしばらくして山西省にある教会のリストを送って下さり、そこには50~60位の教会名が列記されていた。

私の方はいつ行くか検討したが、2018年度中には難しいので、翌年ということで今年の9月あたりにかけてが、季節的にはもう暑くなく時期が最適ではないかと考え、依頼した。黄さんの都合も伺い、8月下旬から9月初旬と決定した。後は航空券の手配をするだけでよかった。航空券はすぐ取れ、最初の2日分だけ太原のホテルを合わせて予約した。すべて万全の準備が出来た。後は現地で予約することとした。



ホテルの窓から見た太原の街は大都会だ

2019年8月22日、午後2時に羽田を立ち、上海の虹橋空港を経由し、太原武宿国際空港に夜10時頃に到着した。黄さんが迎えに来ているはずだったが、姿が見えない。しばらく待ったが不安になり、彼に電話をすると、明日だと思っていたが念のため私の自宅に電話をしたら、今日中国に出発したとの話に慌てて空港に向かっているとのことで、30分位してやっと会うことが出来た。

今回の旅行は、山西省の北部を回り、各地の教会を訪ねることであった。近年、中国ではキリスト教徒の急増やそれに対する中国当局の取り締まりが強化されているというニュースをしばしば目にし、多少不安もあった。また牧師の拘束や教会堂の破壊等が行われているとも耳にした。

中国は世界中でキリスト教が最も拡大している地域の一つであるが、現在、キリスト教信者の数は、天主教(カトリック)が5000万人、プロテスタントが3800万人ほどと推定される(ウィキペディアより)。中国には他国と異なり、プロテスタント教会は政府が公認している三自教



ガイドと運転手と共に（中央が筆者）

会と地下教会（非公認の家庭教会）とがある。この数字は前者のみで、後者は含まれていない。家庭集会の信者数は 5000 万人と推定されていて、両者を合わせると、8800 万人と推定される。またカトリック教会の信者数と合わせると、優に 1 億人を超えている。全人口の 1% に過ぎない日本のプロテスタント人口と比較すると、その大きな数字は正に驚異的である。

一方、カトリック教会（天主教）はヴァチカンとの直接の関係は持たず、中国天主教愛国会という名称でローマ法王の直接的な指導を受けず、独自の働きをしている。外交的にみると、ヴァチカンは中華民国と国交関係を持っているが、最近是中国側がヴァチカンに接近し、交流を図ろうとしている動きがある。カトリック教会にも政府非公認の地下教会があるようである。

プロテスタント教会は中国では基督教とか耶蘇教と呼ばれているが、政府はすべての教会を 1954 年に設立された「三自愛国運動委員会」及び 1980 年設立の「中国基督教協会」という政府公認の 2 つの組織で一元的に統括しようとしている。両組織に所属する教会のみが合法とされ、所属していない教会は非合法とされる。政府に登録している合法的な教会は「三自教会」と呼

ばれているが、実際そのような教派教会があるわけではない。三自教会には公認を得ることで会堂や土地、建物を合法的に取得できるという利点があるが、政府からの干渉や統制を受ける恐れがある。一方、政府に未登録の地下教会は政府による干渉、統制を忌避し、あえて登録することを拒んでいるため、土地や建物を取得することは出来ず、取り締まられる可能性が大きい。数年前に福建省福州市に住んでいた時、あるアメリカ人男性と知り合った。彼は地下教会と関わりがあり、よくそうした教会へ出かけているそうで、興味を覚え一度訪ねてみたいと思ったが、よく考えると、それはあまりにも危険なので、断念したことがあった。

2008 年の北京オリンピックに象徴される高度成長期の 2000 年代は、宗教に対して取り締まりが比較的緩やかであったが、2012 年習近平政権になると状況が一変した。増大しすぎたキリスト教の背後に、国家転覆を目論む欧米敵対勢力による宗教的浸透政策があるとみなして、キリスト教を国家安全に関わる問題として、厳しく取り締まるようになった。近年、各地で教会を破壊したり、牧師を連行したりというニュースを目にするようになった。

今回の訪問先は太原市、原平市、代県、朔州市、忻州（きんしゅう）市、大同市で、山西省の中央部から北部へ周遊しながら、各地の教会を訪ねた。全行程をガイドの黄さんと運転手の韓さんと共に車で回った。彼らはこうした旅行は初めてだそうで、各地で興味を覚えたのか盛んに写真を撮っていた。ところによってはいくつかの仏教寺院も訪ねた。次号で合わせて紹介したいと思う。（続く）